

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

表紙・発刊に寄せて・誌名変遷一覧表・裏表紙

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-12-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1159">https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1159</a>

# 「東京海洋大学研究報告」発刊に寄せて

東京海洋大学長 高井陸雄

東京海洋大学は「海洋の活用・保全に係る科学技術の向上に資するため、海洋を巡る理学的・工学的・農学的・社会科学的・人文科学的諸科学を教授するとともに、これらに係わる諸技術の開発に必要な基礎的・応用的教育研究を行う」ことを理念として開学した大学です。したがって、本学が守備する教育研究分野は幅広い領域をカバーしています。

教育・研究の成果はもちろん送り出す人材に依ることは言うまでもありませんが、もう一方で教育・研究の過程で生み出される様々な研究成果や総説、教育のための方法論、その他様々な成果を公表することもまた大学の活動として重要です。

統合前の両大学では、『研究報告』や『論集』を定期的に刊行し、公表の場を提供してきました。統合後それらの取り扱いをどのようにするかについては様々な視点から意見が出され、検討が加えられました。大学が出版するサーキュレーションの限られている『報告』よりも、それぞれの研究分野のしかるべき学会誌や雑誌に発表することの方が研究者として重要である、とか。広い分野の論文について査読を本学だけではやりきれないでいい加減なものになってしまうのではないか、と言うような論文の質の問題も出されました。

しかし、冒頭にも述べたように、本学の教育研究分野は優れて学際領域であり、その成果を発表できる幅広い領域を網羅する『報告』がないこと、あるいは非常に専門性の高い「論文誌」にその分野に沿ったような論文を公表したとしても、投稿者の真意が十分に理解されない論文を書くことになるなどの意見も出されました。査読については国立大学法人附属図書館の課題となっています。本学と同じような悩みを抱える大学が、互いに協力し、査読を大学を超えて行うことにより、論文の内容をより確かなものにすることができるようになります。もし、これが実現すれば『報告』の質を高めることができるようになります。したがって、単なる出版物ではない、十分に吟味された学術的な出版物となる仕組みが作られるものと考え、16年度から『研究報告』を出版することといたしました。電子ジャーナルにしてはとの意見も出ましたが、あえて冊子体を探ることとしました。

本学が発刊する『東京海洋大学研究報告』は「本学の理念を映し出す」Philosophical Magazine の役割を持つようになることを期待しています。文字通り様々な分野の論文が発表される場として設定することは言うまでもありませんが、志を高く持ち、内容面では質の高い『報告』となることを望んでいます。含まれる論文のジャンルは縦書き、横書き、欧文を問いません。内容的には萌芽的なものであっても、論理の展開、視点、文章構成等の確かさを期待しています。専門の論文誌にはない広い視点からの研究論文や論説、総説、評論等も大いに歓迎されるものです。必要とあれば依頼原稿も掲載したいと思います。

このような研究報告書は年数を重ねて初めてその役割を果たすことができます。本学の理念を映し出し、その内容の変遷をキッチリと映し出していくためには構成員各位の熱心な投稿があって初めて実現することは言うまでもありません。是非多くの方々の投稿をお願いいたします。